



一心・150%・希望 旗に込めた思いを全身で表現

校長 大谷 京司

10月12日(土)、さわやかな秋空の下、第16回プレイデイを開催しました。

「炎」・「水」・「風」の縦割りで構成される3グループが、それぞれリーダーを中心に団結を図りながら作戦を立て練習を積み重ねてきた成果を見事に発揮することができたと思います。結果発表の時には、喜びを分かち合う子、涙をこらえ悔しがる子、様々な姿が見られました。



前日

前日の準備終わりに円陣を組み、児童会長の呼びかけにみんなでこぶしを突き上げ、「オー！」と威勢のよい声をあげた瞬間にみんなの心がひとつになっているなど実感しました。



当日は保護者の皆さんにも保護者競技として「みんなでジャンプ」という長縄跳びにも挑戦していただき、ありがとうございました。子どもたちの応援の熱の入り具合からも、励まし合いながら競技に懸命に向かう姿は子どもたちにまぶしく映ったことと思います。



子どもたちが競技や演技、係活動など1から話し合いと試行錯誤を繰り返し創り上げたプレイデイ。自信と



希望につながり、今後の教育活動でさらに自らの道を切り拓く力になってくれることと思っています。

収穫の喜び

10月1日(火)稲刈りを、17日(木)に脱穀を、多くの保護者の皆様にもお手伝いいただきながら行いました。

こうした自然の中での体験活動を通して、子どもたちは感性が研ぎ澄まされ、様々な発見や感覚に楽しさを覚えるのが分かります。

<稲刈り 児童の感想より>

○いねのかおりがちょっとしました。おいしそうなおいでした。

○稲をかるとき、かめむしがいて手でこうげきしたらかめむしのおいがしてくさかったです。

○楽しかったところは、たくさんの稲を刈れたところとたくさんの生き物を見たところです。

○稲刈りのコツは、左手で稲をしっかりもち、鎌で稲をザクザクと力強く刈る事です。

○稲を刈っている音が気持ちよくて楽しかったです。稲を束ねるときは力があるので大変でしたが、保護者の方がていねいに教えてくれたので、すこしうまくなりました。

○束ねることがむずかしく、きつくしめたままねじるのが大変でした。

○稲をかってつかれた後に座って縛る作業はすごく大変でした。しかもどんどんふえていくので、これをやっている農家さんはすごいなと思いました。

○柔らかい稲と硬い稲は、力の入れぐあいが違うから(かまが)手にあたりそうだったので大変でした。はさがけをするときに稲が顔にあたってくすぐったかったので大変でした。

<脱穀・一連の米作り 児童の感想より>

○千歯こきは、もみが取れる音がきもちいい(ジャリジャリ)。足踏み脱穀機は、手前に回ってしまうのがむずかしい。これもとれる音がきもちいい(ザクザクガリガリ)。唐箕は、中の構造はシンプルなのに、ほとんどゴミともみに分かれるのがすごい。田んぼのさいしょとさいごの土のようすが全ぜんちがった。

○田植えは、どろのかんしょくがきもちよかった。

脱穀は、千歯こき・足踏み脱穀機・唐箕などの昔の農具をあつぎ郷土博物館からお借りして体験したほか、手でもみを外したり、機械の脱穀機に運んだりという一連の作業を縦割りグループで行いました。

